

富士紀行（49） 富士山にかかる伝承とその遺（史）跡

「富士山」を字（アザ）名とする地区を御存知ですか？そんな地区があるはずがないと思われるでしょうが、実際はあるのです。「南都留郡鳴沢村字富士山」がそうです。

鳴沢村役場総務課の渡邊氏に頂いた資料によると、鳴沢村の南半分を占め、富士山頂までの村界で、別荘地帯や天神山スキー場を含む一帯である。

さて、富士山にまつわる色々な伝説は多々あるが、その伝説がさも事実であるかの如くに伝説に関連した遺跡・史跡が残されているから面白い。誰が、如何なる目的で作ったものかは不明であるが・・・

調査不十分であるが、今回2つを採り上げてみたい。

① かぐや姫伝説と竹取り塚

富士市中比奈3丁目、岡田家の竹林が、かぐや姫（赫夜姫）誕生の地である。その竹林には、「竹採姫」（たけとりひめ）と刻まれた卵形の石が置かれて、竹採り塚と呼ばれる。

竹取物語に類する物語は、メソポタミアを始め各国にあり、国内で流布されている話

にも、姫が月に帰るときに残した不老長寿の薬を高い山で燃やして以来その山を不死の山と呼ぶようになったとか、月に帰ったのではなく、姫は富士山の岩窟に籠もったのであるとかというような色々なバリエーションがあるようだ。

（参考：「富士市歴史散歩」、「富士・富士宮・沼津・三島・駿東歴史散歩」）

② 徐福伝説と徐福の墓（富士吉田市）並びに魔王様神社（山中湖村平野）

徐福は、中国秦代の方士。齊（山東省）の出身で齊に伝わる神仙説を宣伝、始皇帝に取り入り、東海中の3神山にあると言われる不老長寿の仙薬を求める旅に巨額の援助を受け、数千人の者や兵士を連れて旅に出た。徐福は紀州熊野に上陸し、不二、蓬莱山に來たと言われる。徐福伝説の伝わっている地区は、30弱ある。

（参照：<http://www.kamnavi.net/ym/jofuku.htm>）

各地を巡って最終的に辿り着き定住したのが、富士山の麓、現在の富士吉田市である。富士山麓では、富士吉田市下吉田にある「福源寺」に境内に徐福の化身であるという鶴の碑「鶴塚の碑」がある。言い伝えによると、時は生類憐れみの令の時代、寺の境内に一羽の鶴の死骸が発見された。鶴捕獲の禁止令もあり、住職は驚き谷村勝山城主に届け出た。この鶴こそ、2000年前、郡内に織物の技をもたらした徐福の化身であるとされ、鶴塚が建立された。（参考：<http://www.mfi.or.jp/yftcs/jofuku.html>）。

杉浦忠睦氏の資料によると山中湖村平野の平野屋の屋敷内には徐福を祀った魔王様神社が残されている。蚕が祀られている。この種の神社は、富士吉田市の明美、鳴沢村明美、下吉田にもある。阿祖谷（現在の富士吉田市明美）大室の原に入った徐福一行は、靈薬を発見できず帰国も叶わず、遂にこの地に定住、里人に織物を教えた。これが富士吉田織物「甲州織り」の起源であるとされている。（参考：富士吉田織物協同組合のホームページ）。徐福一行の定住を実証するかの如くに、羽田（秦）姓がこの地方には多い。機織を教えたことから、織物を今でも「ハタ」「ハタオリ」と言うのだとの説もある。

富士山の妙薬とは何か？曰く、「コケモモ」ではないか？コケモモ酒を北富士駐屯地の技官に頂戴したが、強壯剤です。富士山には「オニク」と言う、ミヤマハンノキの根に寄生する多肉質の植物で、キノコ的一种で漢方薬の素材である。「ブクリョウ（赤松の根に寄生するキノコ）」、「五味子」（甘味、苦味、塩味、香り、酸味）の5つの味のあるもの、サルノコシカケ等があり、妙薬と言われていた。

（参考：百科事典、杉浦忠睦氏に頂いた資料、記載のホームページ）